

物性技術実験

○松田樹也

電気情報技術系

1 はじめに

近年のデバイスの開発には、物性技術の進歩により多大なる発展がなされてきた。本実験では、真空技術、低温技術および半導体のホール効果を取り上げ、物理特性を把握し、実験において物質の物理的現象を解明するとともに、ものづくりおよび計測技術の学習を通してさまざまな技術を習得する。

1.1 日時

2011年4月20日～12月14日 の期間の水曜日 1限～4限

1.2 場所

工学部 9号館1F 基礎実験室、暗室
研究実験棟 機器制御室、電気エネルギー実験室

1.3 受講者

工学部 情報電気電子工学科 3年生 106名 (Aコース)

2 内容

2.1 指導内容

本実験では、ものづくりが主体となる真空蒸着実験と酸化物高温超電導体の合成は、製作作業中の間作業以外の学生が何も行わない時間がないように、実験課題を課して、時間を有効に使っている。このように、ものづくり実習および計測における待ち時間の使い方を工夫して行っている。また、試薬や寒剤の取り扱い方には十分注意を払い、安全に実験できるよう指導した。

2.2 実験内容

- ・真空技術と蒸着技術の理解および基板洗浄
- ・真空づくりと真空度の計測および蒸着薄膜形成
- ・酸化物高温超電導体の合成と評価
- ・半導体のホール効果

3 まとめ

受講者には、興味を深められるようにできるだけ考えさせられるように実験を行っている。たとえば、磁気浮上実験では、浮上のメカニズムや応用先についてディスカッションさせることで、知識と興味が深められている。また、実験機器の老朽化に伴い、今後更新が必要であり、新しい計測システムの構築を行っていききたい。